

2025年度滋賀県女性医師ネットワーク会議の活動を振り返って。
医師のキャリアに正解はあるのか?~多様性の時代を生き抜く働き方~ ー第12回滋賀県女性医師交流会を終えてー

滋賀県女性医師ネットワーク会議

会長 卜部 優子

社会医療法人誠光会
淡海医療センター産婦人科
統括部長



皆様こんにちは。年末から厳しい寒さが続いておりましたが、お変わりなくお過ごしでしょうか。私の勤務する病院でも年明け以降、入院患者さんが増加しており、医療現場の忙しさを改めて感じております。

女性医師は年々増加しており、厚生労働省の報告によれば、2022年に女性医師が占める割合は23.9%となりました。1998年の13.6%と比べ約10%増加し、医療を支える重要な担い手として存在感を増しています。一方で、働き方の多様化やキャリア形成、ライフイベントとの両立など、女性医師を取り巻く課題は複雑化しており、女性医師同士がつながり、悩みや経験を共有できるネットワークの重要性は、これまで以上に高まっていると感じております。

滋賀県女性医師ネットワーク会議は、滋賀県で働く女性医師による支援のネットワークとして2011年に発足しました。現在は、滋賀県病院協会、滋賀医科大学、滋賀県医師会から選出された8名の女性医師が委員として活動しております。時代ごとの課題をテーマに、滋賀県内の医師や医療機関を対象としたアンケート調査を実施し、集計結果の報告や講師を招いた年1回の交流会を開催しています。また、必要に応じて滋賀県知事への提言も行っております。

さて、2025年12月14日に第12回滋賀県女性医師交流会を開催いたしました。今回も対面とZoomを併用したハイブリッド形式とし、対面39名、Zoom12名と多数のご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。

今回のテーマは「医師のキャリアに正解はあるのか?~多様性の時代を生き抜く働き方~」とし、藤田医科大学 病理学講座 主任教授の南口早智子先生にご講演を賜りました。

ご自身の妊娠・出産のご経験を交え、病理医を選択された背景や女性医師のタイプ別の特徴、周囲のサポートの在り方について示唆に富むお話を伺いました。また、いわゆる「直美」にも触れられ、報酬面だけでなく、臨床現場の過酷さや家族との時間を求める思いが背景にあることを共有いただき、深く考えさせられました。

講演後には、「医師のキャリア形成にかかるアンケート結果」を報告いたしました。本調査は滋賀県内で勤務されている医師343名にご協力いただき、県内の現状を多面的に把握する貴重な機会となりました。2013年調査との比較を通じて、女性医師の労働環境や意識の変化についても報告いたしました。

また、会場内アンケートでは、現在の働き方に満足している、またはどちらかといえば満足と回答した方が91.3%でした。

本会の活動を通じて感じるのは、女性医師・男性医師という区別を超え、すべての医師が仕事と家庭、人生の課題に直面しているということです。一人ひとりが誇りをもって医療に従事できる環境づくりに、橋渡しとして関わられるよう、今後も時代の変化に応じた活動を継続してまいりたいと考えております。



最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍、ならびに関係各位のさらなる発展を心より祈念申し上げます。

Table with 3 columns: Meeting No., Date, and Content. It lists 12 meetings from 2012 to 2025, including topics like 'Work-Life Balance', 'Career Development', and 'Workplace Environment'.



## 医師のキャリア形成にかかるアンケートを実施しました。

滋賀県女性医師ネットワーク会議では、令和7年7月1日から9月15日まで、主に滋賀県内で勤務する医師を対象に「医師のキャリア形成に関するアンケート」をオンライン形式（Googleフォーム）にて実施しました。その結果の概要を、第12回滋賀県女性医師交流会にて発表いたしましたのでご報告いたします。回答総数は343名（男性医師146名、女性医師197名）で、年齢構成および主たる勤務先は図1の通りです。

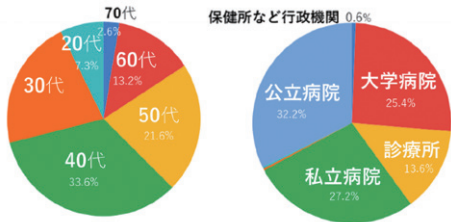


図1. 回答者の年代と主たる勤務先について

## 医師のキャリア形成にかかるアンケート結果 ～キャリア形成について～

勤務形態（図2）では、30～40代で他の年代より非常勤や時短勤務の割合が高く、その理由として男性は「大学院進学」、女性は「出産・育児」が最多でした。

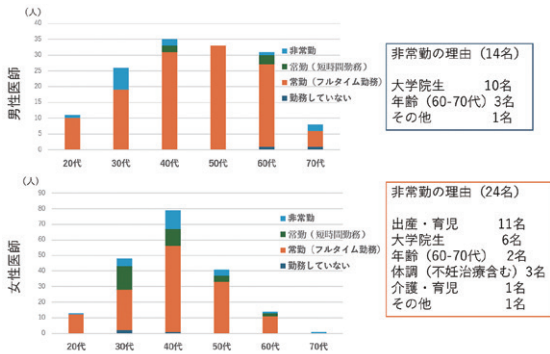


図2. 男女別年齢層別雇用形態と非常勤勤務の理由について

また、常勤職の中断経験については、男性13.0%に対し、女性は37.1%にのぼります。常勤を継続できている要因（自由記載）では、「家族の協力」が最も多く、次いで「未婚・子がいない」「職場の理解」と続きました。さらに、常勤継続において困難を感じた経験については、男性のおよそ4割、女性の6割があると答え（図3）、その理由（自由記載）として男性が「仕事」に関するものが多い一方、女性では「子育て」が最多でした。常勤継続に必要なサポートとして、当直・休日勤務の免除、ワークシェア、オンコール軽減、子の年齢を問わない時短勤務制度、家族の協力、教育・研究時間の確保などが挙げられ、これらの

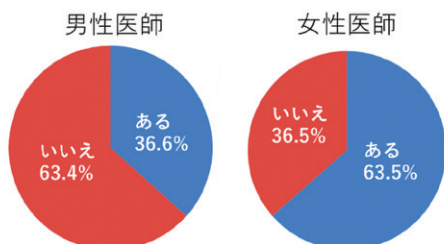


図3. 「常勤職を続けるうえで、困難を感じたことはあるか」に対する回答

環境改善が依然として強く求められていることが浮き彫りとなりました。

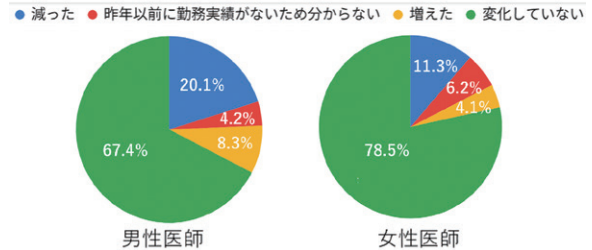
当会議では、10年前にも女性医師を対象とした同様の調査を実施いたしました。前回調査との比較を通じて、この10年間で改善された点や、依然として残る課題を明確にし、今後の活動に活かしていきたいと考えております。最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

（文責 山原真子）

## 医師のキャリア形成にかかるアンケート結果 ～「医師の働き方改革」について～

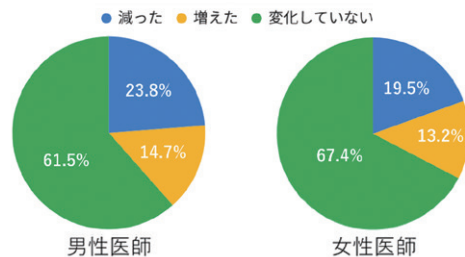
今回のアンケートでは、2024年4月に本格的にスタートした「医師の働き方改革」についても設問を設け、施行前後での働き方の変化などについても調査しました。結果として、労働時間については、「あまり変化がない」との回答が大多数でしたが、以下のような傾向が見られました。実際の労働時間は、男性医師が女性医師に比べ、長時間勤務や宿日直、待機に従事する割合が高く、働き方改革以後、女性医師よりも労働時間の減少を実感している割合が多いことから、労働時間の是正において一定の効果があったと考えられます。

### 「働き方改革により週間の実労働時間は変化したか」に対する回答



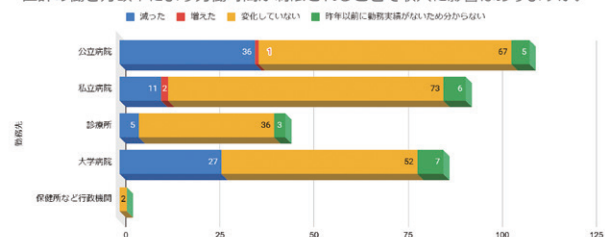
「自分のために使える時間」は男女ともに、「増えた」よりも「減った」という回答の方が多く、労働時間の短縮が直ちに私生活の充実に結びついていない現状が伺えます。

### 「働き方改革により「自分のために使える時間」は変化したか」に対する回答



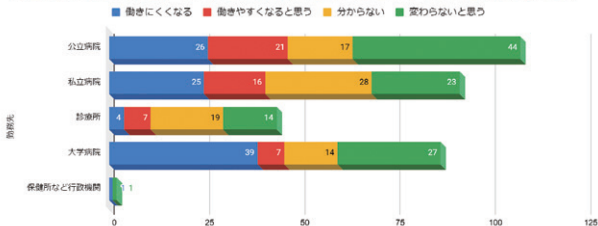
勤務先別の評価では、収入について、公立病院や大学病院勤務の医師の約30%が、「減った」と回答しており、働き方改革の負の側面として現れています。

医師の働き方改革により労働時間が制限されることで収入に影響はありますか。



また、大学病院勤務の医師に「働きにくくなる」と感じる医師が多い傾向にあり、診療のほか、研究・教育という業務が、労働時間制限の影響を受けることへの懸念によるものと推察されます。

働き方改革により働きやすくなりましたか。また、働きやすくなると思われませんか。



ワーク・ライフ・バランスを整えるために挙げられた手段としては、1位「休暇取得しやすい環境」、2位「医師の増員」、3位「上司の理解」でした。

今後は、労働時間の是正だけでなく、気兼ねなく休暇をとれる環境や、労働に見合う給与の改善、診療に加えて研究や教育にも十分時間と人員をかけることのできる体制作りなどが必要と感じます。詳細についてはキャリアサポートセンターHPにアンケート結果を後日掲載予定です。(文責 北原左和子)

### 滋賀県医師キャリアサポートセンター からのお知らせ

滋賀県と滋賀医科大学が共同で設置する当センターでは、県内で働かれている、働こうと考えている医師・医学生を対象とした総合相談窓口を設置しています。子育てとキャリアの両立、県内医療機関への就業(復職)など様々な悩みにお応えいたします!



<https://shiga-ishicsc.jp>

## 2025年度の活動を振り返って ～香員からのつぶやき～



社会全体が「働き方改革」と称して働き方や生活を考えるようになりました。しかし、妊娠、出産、子育て、介護などと仕事の両立は簡単にはいきません。

今後も女性及び男性医師を応援できる活動をしていきましょう。



**西島 節子**  
彦根市立病院  
小児科 主任部長

南口先生の快活なお話を伺い、先生のお人柄に触れて元気が出ました。自身もまた、後輩の方が多い年次になってきたことを思い、彼らのために何ができるかを考えていきたいと思いました。



**佐藤 知実**

滋賀医科大学  
医師臨床教育センター  
副センター長

アンケート調査を通して、他の先生方の働き方や悩みに触れ、共感するとともに自分自身の働き方を見直す機会となりました。

多くの先生方が、南口先生の仰る「仕事を楽しいと感じられる、良いキャリアパス」を歩めるよう願っています。



**松林 優子**  
大津赤十字病院  
新生児内科

1年間ありがとうございました!!

滋賀県女性医師ネットワーク会議：<https://shiga-ishicsc.jp/female-doctor-network-meeting>



発行：滋賀県女性医師ネットワーク会議

会長 卜部 優子 社会医療法人誠光会 淡海医療センター  
副会長 西島 節子 彦根市立病院 山原 真子 滋賀医科大学 医師臨床教育センター  
委員 梅田 朋子 滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点/独立行政法人 地域医療機能推進機構滋賀病院  
北原 左和子 社会医療法人誠光会 淡海医療センター 佐藤 知実 滋賀医科大学 医師臨床教育センター  
辻 和香子 滋賀県立総合病院 松林 優子 大津赤十字病院  
(以上、五十音順)

お問い合わせ先：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学 クオリティマネジメント課内  
(事務局) 滋賀県医師キャリアサポートセンター TEL 077-548-2826 FAX 077-548-2832  
E-Mail: ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp HP: <https://shiga-ishicsc.jp>